

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

千尋の滝での新しい発見

神山小 六年 赤司 弦貴

がタンがタン。大家さんと千尋の滝に行っ  
 た。ぼくたちの学校の近くにある千尋の滝。  
 いまままでに何回も行ったことがある。だから、  
 少し行きたくないなあと思っただ。転トラで千  
 尋の滝に行った。木々が道路の方にまがって  
 アーチをっくっているようだった。木々のア  
 ーチをくぐりぬけるのは、いつも行くより短  
 いようで長い道のりだった。千尋の滝のふも  
 とに着いた。やっとなに着いた。ぼくは心の中で  
 言った。転トラをおりた。またここかと思っ  
 ながら、千尋の滝の方にむかおうとしたら、  
 大家さんが、  
 「こっちきてごらん」  
 と言った。そう言われたから行ってみた。す  
 ると、ぼくはおどろいた。いつもすどおりし  
 ていたちゅう車場のわきにおもしろい植物が  
 あった。それは、人が手を挙げているポース  
 の植物だった。大家さんが、

(不許複製)

3 詩はどの行も三はんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

「おもしろい植物だらう。」  
と言った。身近ですでおりするちやう車場の  
わきに、人が手を挙げているような植物が十  
ふさぐらい生えていた。ぼくが大家さんに、  
「この植物の名前は何？」  
と聞いたら、大家さんは  
「ヤツ、ユソウだよ。」  
とやさしく教えてくれた。ぼくが千尋の菴に  
行こうとしたとき、また大家さんが、  
「おもしろいの見せてあげる。」  
と言ったので、こんな物はなと思  
った。大家さんについて行ったら、ちやう車  
場の右うしろのかべに着いた。そしたら、か  
べ一面に植物が生えていた。大家さんが、  
「これは、ユケの食虫植物だよ。」  
と言ったのでびっくりした。ぼくは、  
「名前は何？」  
と聞いたら、大家さんは、  
「ユモウセンゴケだよ。」  
と言った。それを聞いてふうんと思  
いながら、

No.

3 詩ほどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

ユモウセンゴケを見ていると、黒い虫がユモウセンゴケについていた。大家さんが、「千尋の滝に行こう。」と言った。ぼくは、「うん。」と楽しそうな声でいった。着いた時のきもちよりも、すっかり楽しんで気持ちになつた。千尋の滝は、今まで来た時よりも、きれいで、はく力があつて、かつこよく見えた。ぼくは、家に帰つたあと、このことを家族に話した。それたらぼくは、また千尋の滝に行きたいなあと思つた。千尋の滝に行く前を気持ちは、なんだつただろうと思つた。ぼくは、千尋の滝を楽しみ思い出になつた。ぼくは、千尋の滝を楽しむためには、行く時は帰る時周りをじと観察して、おもしろいことを見つけることだと思つた。

No.

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

